

和光市都市農業推進協議会 会議録（要点記録）

- 日 時：令和8年3月13日（金）15：00～17：00
- 場 所：和光市役所 6階603会議室
- 出席者：1号委員 新坂 篤司（和光市農業委員会 会長）
1号委員 成田 真理子（和光市農業委員会 委員）
2号委員 清水 永悟（代理）（あさか野農業協同組合）
3号委員 富澤 章（和光市農産物庭先販売組合 組合長）
3号委員 吉田 裕司郎（埼玉研有会）
3号委員 田中 陽平（和光市農業後継者倶楽部 副会長）
4号委員 清水 飛鳥（代理）（さいたま農林振興センター）
4号委員 栗原 菜月（さいたま農林振興センター）
5号委員 上原 磐一（和光市消費者団体連絡会）
6号委員 高橋 契将（和光市市民環境部産業支援課 課長）
- 欠席者：3号委員 吉田 洋（和光市農産物直売センター出荷協議会 会長）
5号委員 金森 貴子（和光市消費者団体連絡会）
5号委員 石田 良子（和光市商工会）
5号委員 井関 典子（NPO 法人わこう子育てネットワーク 理事）
6号委員 杉本 智紘（和光市教育委員会学校教育課 指導担当）
- 傍聴者：0人
- 事務局：市民環境部長 渡辺 正成
産業支援課課長補佐 大里 裕美子
産業支援課農業振興担当 今野 陽子
産業支援課農業振興担当 大久保 友貴

- 1 開会
- 2 挨拶
和光市都市農業推進協議会会長挨拶
- 3 自己紹介
委員自己紹介
事務局自己紹介
- 4 議事
議題第1号 和光市都市農業振興計画中間見直しと重点課題の取り組み

【新坂議長】

議題第1号 和光市都市農業振興計画中間見直しと重点課題の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは始めに、和光市都市農業推進計画についてご説明いたします。都市農業振興計画は平成31年3月に和光市における都市農業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、都市

農業の安定的な継続を図ることを目的に策定されました。本計画は概ね 10 年を見据えた計画となっており、進捗状況や社会情勢の変化に応じて、適宜必要な見直しを行い、状況に即した計画とするとしていることから、策定後 5 年を目途に計画の評価を行い、中間見直し検討委員会を設置し、中間見直しを実施しました。

次にアンケートの実績についてご説明します。都市農業振興計画中間見直しの際に、農家向けアンケートと市民向けアンケートを実施しました。

農家向けアンケートは、8・1 調査の対象となる農家 196 件に 10 月 3 日に郵送し、11 月 30 日までに返信用封筒で回答を回収する方法で行いました。回答件数は 75 件で、回収率は 38.1%となっています。

市民向けアンケートにつきましては、令和 7 年 10 月以降の軽トラ市や農産物共進会等のイベント、またアクシスや農業体験センター、直売センターにアンケート用紙を設置し回答箱での回収、その他電子申請によるアンケートの実施を行い、160 件の回答を得ています。

アンケート結果について、平成 30 年度と令和 7 年度を比較したものになります。

(農業者向けアンケート①担い手の育成や確保のために必要なもの ②農地の保全や活用のために必要と思われるもの ③農業の理解や市民との交流の活性化のために必要なもの)

①～③の質問に対する回答結果を説明

(市民向けアンケート①市民向け回答者の男女比 ②年齢 ③農産物を開催に気にしていること ④和光市農産物を知ってもらうための取り組み ⑤和光市の農地にはどんな機能が期待できますか)

①～⑤の質問に対する回答結果を説明

これらのアンケート結果から、「人の暮らしに寄り添い、採れたて新鮮で美味しい農産物を提供するだけでなく、美しい風景を提供している農業や農地を、貴重な資源と捉え、この“農のある暮らし”を未来につなげていかなければならない」と考察しております。

次に施策に体系についてご説明いたします。この施策の体系は都市農業振興計画策定時に作成されたものになっております。今回の中間見直しでは施策体系及び重点目標の変更はしていません。将来像として「～未来へつなぐ 農ある暮らし～」としており、基本目標は 1 担い手の育成 2 農地利用の最適化と多面的機能の発揮 3 農産物の付加価値の創造と販売力の強化 4 農業への理解の醸成と交流の活性化 となります。まとめますと、各施策の進捗状況について、大部分の施策は順調に推移していると評価しています。

議題 1 和光市都市農業振興計画中間見直しと重点課題の取り組みについての説明は以上です。

【新坂議長】

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたが、質問やご意見はありますか。

【富澤委員】

施策の評価で進捗は順調に推移していると説明がありましたが、どういうところで順調と判断されたのでしょうか。

【事務局】

アンケートの結果から推察すると、このような結果が得られたということです。

【富澤委員】

事務局の説明では10年前の計画の基本目標に対し、順調に進捗しているという説明でしたが、本当に順調に推移しているのでしょうか。

【高橋委員】

都市農業推進協議会は、事務局に質問を投げかけるものではなく、協議会の中で議論すべき話題について意見を出し合っていくものだと考えます。

今回の議題に上がっている都市農業振興計画中間見直しでは、検討委員会で議論されたものの報告となっています。都市農業振興計画の10年の期間中には、農地の減少等、社会的にも変化してきていると思いますが、中間見直しでは計画そのものの変更ではなく、計画に対しての基本目標の進捗状況の評価を中間見直し検討委員会で話し合い、順調に推移しているという結果になったということです。

【新坂議長】

10年前の計画で、その間課題等もあり目標達成はしていないと思いますが、目標設定や方向性に関しては大きなずれはないのかなと思います。また、都市農業推進協議会では、生産者や消費者の各団体から出席していただいているので、自分とは違う立場の人と話し合える貴重な機会です。皆さんに意見を出してもらいながら、方向性を調整していくのが都市農業推進協議会なのだと思います。

【富澤委員】

課題はあると理解しているのでしょうか。

【新坂議長】

もちろん課題はあると思います。様々な視点からどうしていくのかと、その道筋を考えていくという会議なのではないでしょうか。

他にご意見、ご質問がある方がいらっしゃいましたらお願いします。

【新坂議長】

資料9ページの、農業の理解や市民との交流の活性化のために必要と思われるもののアンケート結果は面白い結果になっていると思いました。平成30年度は体験型農園の拡充が4番目でしたが、令和7年度では2番目にあがってきています。市民農園では、農業をやっていない人がいきなり農業をやることはハードルが高い。そういった面で、体験型農園で、経験や知識のある方のもとで体験していくという形であれば敷居が低く、農業に触れ合いたいと希望する方が増えるのではないかと感じました。

【高橋委員】

農地が減って農作物がどう育つか見る機会が減っています。単に収穫体験ではなく、土を作り、種あるいは苗を植え育てて、最後に収穫という体験を経てありがたみを知ってもらいたいと思います。

【新坂議長】

農業委員会で練馬の体験型農業を視察に行きました。

農園には約100区画あって、農園主から作物の作り方を指導していただき、皆さん同時に同じものを作っていました。同じものを作り、同じように育ていくので、作物も揃って大変きれいでした。そういう体験型農園が今後主流になっていくのかなと思いました。

市内の農地が減っていくことに寂しさを感じていると同時に、生産緑地を持たれている方は、非常に多くの財産を失うことになるのではないかと考えています。これまで培ってきた農業に関する技術を残して活かす方法は何かないのかと考えます。残った農地を家庭用だけではなく、市の財産として残し、培われてきた技術を広めることはできないかと思慮しています。

アンケート結果を見ると、生産者と消費者のニーズがあいそうな気がしました。

【富澤委員】

農家向けのアンケートの回答率は38.1%となっていますが、市民向けアンケートの回答率はどれくらいでしょうか。

【事務局】

市民向けのアンケートについては、対象者を絞ってはなく、イベント参加者等のどなたでも回答いただける方法をとっておりますので、回答率は出ません。

【富澤委員】

資料17ページの令和7年度市民向けアンケートについて、1番が和光産の農産物が買える場所を増やすこと、2番がレストランや学校給食などで和光産の食材利用することとなっていますが、160件の回答件数で市民の要望として受け止めてよいのでしょうか。

【事務局】

アンケートの結果はそうになっています。回答していただいた方には、様々な年代の方がいらっしゃいますので、そういった点もご考慮いただければと思います。

【富澤委員】

そうしましたら、直売センターや庭先で販売することは、市民の方にも受け入れられて有意義であると受け止めていいのでしょうか。

【高橋委員】

いいと思います。

【富澤委員】

行政も農協も今後さらに協力する必要性も出てくるのではないかと思います。

【高橋委員】

今までの支援と変わらず行っていきます。

【上原委員】

今回のアンケートについて、中間報告ということで提示されていますが、市内の農地面積等、基礎的なデータをつけないと全体像が見えてきません。

平成30年度と令和7年度のアンケート結果は多少順位の変動があるものの、大きな変化は見られませんといったことだけでなく、農地面積等変化の過程等も資料として提示してもらえないでしょうか。

【高橋委員】

意見交換の場として開催したのが久しぶりということもあり、至らない点があることは申し訳なく思っております。

【新坂議長】

他にご意見ご質問はありますか。

【成田委員】

資料 7 ページの担い手の育成についてのアンケート結果について、平成 30 年度は経営の安定化に向けた支援との回答が圧倒的に多かったのが、令和 7 年度は回答が分散されて、経営の安定化に向けた支援との回答は 4 番目になっていて、個別の農業支援が 2 番目に多かったのがすごく特徴的だと感じました。和光市では後継者不足は深刻になってきていると思いますが、個別の農業支援とはどういうものを求めているのか、わかれば教えてください。

【事務局】

アンケートについてですが、平成 30 年度のアンケートの項目よりも令和 7 年度は項目を増やしたことで、回答を 1 つしか選択できなかったが複数回答を可にしたことにより、回答が分散されたものと思います。

【成田委員】

何を求めているのかがわかると、解決方法にもつながっていくのかなという感想を持ちました。

【吉田委員】

埼玉研有会に所属していますが、出荷先は生活クラブ生協さんやらでいっしょぼーやです。別の農業団体に入っている方は直売所やスーパーなどがありますが、私の場合は 2 カ所に出荷していて、スーパーは登録制ということもあり、出荷できていないようなこともあります。

都市農業についてお話ししますと、現在都市農業は厳しい状況にあります。相続が発生すると、どうしても畑を売らないといけなくなり、畑が減ってきます。和光市に限らず、都市化が進み農業をやる環境ではなくなっている現状です。農作業を意欲的にやりたくても、土埃や農薬等について住民からの苦情があり、肩身の狭い思いをしています。市民に理解を得られ農業ができれば一番いいけれど、なかなか難しい環境になってきています。

その中で、アンケートの結果はあくまでも参考として活用していき、都市農業推進協議会として、意見を吸い上げてブラッシュアップ出来れば良いと思います。

【新坂議長】

生産者、消費者の関係性は、他にはない都市農業ならではのものだと思います。お互いの考え方の違い、ギャップをいかにして埋めていくのか、生産者の要望だけではなく、消費者の要望も聞き、それをすり合わせていくことが一番の目的なのではないかと思います。

この協議会でもいろいろな立場の方が委員となっていますので、皆さんの意見をおっしゃっていただきたいと思います。

では、次の議題に進みます。事務局、説明をお願いします。

議題第 2 号 地産地消（わか産わか消）

【事務局】

それでは議題 2 の地産地消について説明します。

農産物の販売力強化について、こちらも和光市都市農業振興計画中間見直しのアンケート結果から得た情報となります。

平成 30 年度と令和 7 年度のアンケート結果の比較をしています。平成 30 年度は直売施設の基盤整備、活性化（新たな直売所の設置等）が一番多く、令和 7 年度に多かったのはわか産わか消の推進となります。

次に市内学校給食提供数についてです。平成 27 年度から令和 6 年度まで、野菜、果物の提供

キロ数になります。コロナ禍により給食を実施していない期間があった令和元年度、令和2年度は一時的に提供数が減っています。令和3年度はコロナ禍前の数値に戻っていますが、令和6年度は平成27年度の半数以下に減ってしまっています。生徒数の減少も減っている要因の一つと考えられます。

次に和光全体のうち和光市産野菜・果物の割合についてご説明いたします。金額ベースで集計したのになります。平成30年度16.6%、令和6年度7.3%となり、こちらも約半数に減少しています。現状から読み取れることとして、給食材料は数量・大きさ等、様々な制約があるが、小中学生については地元和光産の食材に慣れ親しむ機会の目的は果たしていると言えます。

議題2の説明は以上となります。

【新坂議長】

ありがとうございます。ただいまの事務局から説明に対し、質問やご意見等ありましたらお願いいたします。

【富澤委員】

現状から読み取れることで、野菜・果物の提供数も提供割合も減っているのに目的は果たしているという総括に至った理由は何ですか。

【新坂議長】

高齢化で農家数も減っていて学校給食に野菜を提供できない等、課題もたくさんあると思います。富澤委員のおっしゃる通り、目的を果たしているとは思えません。現状、これでよいとも言えません。現状に対してどのような課題が考えられるのか富澤委員のお考えをお聞かせください。

【富澤委員】

今の質問は事務局に対してのことですので、事務局からの回答をお聞かせください。

今の件とは別に、学校給食に関して都市農業推進協議会会長あてに要望書を提出しました。今日は、それに対して会長のお考えを聞けるものだと思っておりました。

～要望書の内容を確認～

【事務局】

委員の皆様には情報共有させていただくために、農産物産先販売組合組合長から都市農業推進協議会会長あてに出された要望書の内容を読み上げさせていただきます。

(内容読み上げ)

要望書の中にもありました「地産地消 わこ産わこ消」について、本日の都市農業推進協議会の議題に挙げさせていただいているところです。

【新坂議長】

ありがとうございます。

要望書をいただきましたが、今すぐに解決策は出ないものと思っております。皆様の意見を聞きながら、今後ひとつずつ課題に対して協議検討していくことが良いのではないのでしょうか。

皆さん、何かご意見はありますか。

【清水（永）委員】

先人の作ったものを残していきたい、増やしていきたいという生産者の意見としては理解できますが、議長も先ほど言ったように、色々な人の意見を吸い上げていくことが良いのではないのでしょうか。学校給食については財源が限られていることもあり、地場産を使いたくても使えない

状況もあります。生産者と、野菜を使っていただく現場とのマッチングであったり、例えば人が増えたとしても、使う量は限られたものになったり、作れない品目もあったり等、課題はたくさんあるので、時間はかかるかもしれませんが、皆さんのご意見をいただき、課題に対して検討していくのが良いのではないのでしょうか。

【上原委員】

昨年くらいから学校給食の無償化についてと、地産地消についての意見が出ているということも報告します。

【成田委員】

農家と年間契約しているのか、その都度あるものを購入するのか、学校給食への農産物の提供方法について教えてください。

【富澤委員】

会議を運営しているのは農協で、農産物直売センター出荷協議会が学校給食に提供する農家をコーディネートしています。地場産野菜を使用する前月の入札会議に、品目と量が提示され、その都度参加農家を募集する形です。野菜の生育ぶりを見て学校給食に出してみようかという農家と、年間で計画的に作付けを行い、学校給食提供する農家もいます。年間作付けをみんなで共有できると一番いいのではないかと思います。

【吉田委員】

各学校から野菜の種類や量などの要望を出荷協議会がまとめて、生産者の会議に出されるといいのかなと思います。

【富澤委員】

毎月の会議はそれでいいと思います。年に1度の全体会議では、年間作付けや、どの学校でどれくらい必要としているのか等の話が出ますが、出荷協議会全体に共有されず、その時に出席した人にしか共有できていません。

【高橋委員】

学校給食については、各学校に何時までに納品しなければいけない等、時間の制約もあります。

【吉田委員】

いくつも出荷先があると、時間をあわせて納品ということは難しい状況にあります。団体に所属していると、そこでの出荷がメインになり、学校給食まで回らないということもあります。以前は、当時の会長が調整をしてくれて割り振りができていましたが、今は割り振りができていない状況です。学校給食の会議には10数名出席していたと思いますが、だんだん少なくなってきます。直売所の単価が仕入れ価格よりも上回ってしまう等、仕入れた方が安価になることがあり、教育委員会も財源のことを考えているのではないのでしょうか。

【成田委員】

単純に農家数が減っているから、給食に提供する割合が減っているという理由であれば、何かいい解決方法があるのかなと思いました。

地場産野菜を使いたくても、供給がなければ結局他の物を購入しなければならないなど、何が原因なのかわかりませんが、年間契約等で主たる野菜を確実に地産地消ができる仕組みを作れば、提供割合の数字も上がってくるのかと思いました。

【富澤委員】

消費者の意見として貴重な意見だと思います。

【新坂議長】

10年前と出荷先の選択肢が増えてきたことが大きな要因なのではないかと感じました。

【富澤委員】

農産物直売所で、外部に供給するだけ商品化できたり、学校給食で商品化できれば、あえて生協やスーパーに回す必要はないですね。現状、そうならないのは魅力がないからです。

【吉田委員】

例えばブロッコリーを 200, 300 納めたいという方が何人もいた場合、直売所でははけることができないので、他のところに持っていった方が良いということになります。趣味や遊びでやっているのではないので、納めたくても納められないのであれば、他の出荷先に持っていくことが現状ではないでしょうか。

【新坂議長】

学校給食に関して、いかに魅力的なものにしていくかというのが課題で、この会議での議題となっており、皆さんとの意見交換が必要になっているものだと思います。

議題の地産地消から学校給食の話にもなっていますが、いかがでしょうか。

【富澤委員】

和光市は後継者不足も大きな課題となっています。庭先販売も大変厳しい状況となっています。

【新坂議長】

市内の農家さんは個人で庭先販売をしている方もいますが、何かご意見等ある方はいらっしゃいますか。

【上原委員】

地元野菜を提供するには、根本的に農業を継続していけるのかということですが、後継者不足、収入の不安定さなどが継続していくことの難しさではないでしょうか。今ここでは畑の野菜のことしか話していませんが、生産者と消費者が話し合える機会の場を設けることが必要なのではと思います。

【新坂議長】

ホームページに掲載されている庭先販売所マップも古くなっているので、生産者も消費者も見やすいものにデータの見直しをしていただきたいと思います。

では、次の議題に移ります。

議題(3)の遺贈金「まちづくり寄附金」の活用について、事務局から説明をお願いします。

議題第3号 遺贈金「まちづくり寄附金」の活用

【事務局】

それでは、説明いたします。

遺贈金は、和光市の農業や伝統工芸に使ってほしいとの遺言により約 1.2 億円が寄附されました。

今までの用途として、生涯学習課の所管施設であるふるさと民家園の修繕費、また令和 8 年度の事業として都市農業支援事業補助金予算の増額分に充てられることとなっています。

和光市の農業に使用してほしいという遺志ですが、産業支援課が独占して使用できるものでは

なく、秘書広報課や財政課との事前調整・協議が必要となることをご報告させていただきます。
説明は以上です。

【新坂議長】

ただいま事務局から説明がありました。ご意見等がありますか。

【吉田委員】

まちづくり寄附金というものは元々あったものですか。遺贈金があったため設置したもので
か。

【事務局】

寄附金という制度は以前からありました。遺贈金として寄附されたものをまちづくり寄附金に
組み込んでいます。

【吉田委員】

どのような形で活用するのか市の考えはありますか。

【事務局】

令和8年度予算に市民農園の整備、農業者向けの都市農業支援事業補助金に充てる予定をして
いますが、一部の金額でしかありません。遺志を持たれた寄附金をどう農業振興に充てられるの
か、都市農業推進協議会でアイデアを出していただき、予算化できるようにしていきたいと考
えています。

【富澤委員】

使途について議会の承認は必要になりますか。

【事務局】

当初予算もしくは補正予算の中で寄附金を充てることを示して上程し、承認される形になりま
す。

【富澤委員】

寄附金は、農業振興とふるさと民家園で半分ずつ使えるということですか。金額の配分につい
ては考えなくていいのですか。

【事務局】

半分ずつということではありません。遺志を踏まえて、年度ごとに協議し提案し、それが予算
化されれば執行されることとなります。金額については、1.2億円を農業振興と伝統工芸の2つ
の事業で使えるということです。

目的を持って寄附されたものなので、市民の理解が得られるような事業に充てたいというのが
秘書広報課の考えになります。現課で寄附金を充てられるような事業を提案して、それが認めら
れれば寄附金が充当されることとなります。

【高橋委員】

寄附金が充当されなければ、一般財源で事業を行うこととなります。農業振興で言えば、市民
農園は大変好評な事業なので、令和8年度に市民農園の整備に寄附金を充てることとなります。

今後どんな事業を展開していくかは皆さんの意見を収集しながら進めていく必要があると思
います。

【富澤委員】

どのような方法で意見を収集するのですか。みんなというのはどんな人のことを言っているの

でしょうか。

【清水（永）委員】

まずはこの協議会で協議することなのではないでしょうか。

【事務局】

先ほど会長からも話がありました庭先販売所のマップですが、地産地消を進めるためのアプリを導入する等の方法もあると思います。そういった一つ一つの意見を頂戴して、寄附金を活用した事業を予算化する方向で進めたいと思っています。

【富澤委員】

所属している団体に寄附金の活用方法を聞くことは可能ですか。

【事務局】

団体の代表として出席していただいているので、所属団体から情報を収集することもお願いしたいところです。

【田中委員】

市内で住宅の間をトラクターで移動することは大変苦勞しています。例えば市民農園近くに、あらかじめ共同トラクターを置いて使用できるようになれば、効率化を図ることができて良いと思います。

【富澤委員】

給水栓からトラックに積みなおして水を運ぶことは大変手間がかかります。希望者の圃場に水栓を立てて、直接散水できれば非常に作業効率が上がります。

【吉田委員】

昨年は夏に人参を蒔きましたが暑くて発芽しないということがありました。雨は降ってもゲリラ豪雨が多く流されてしまいましたので、そういう面では散水栓があることはありがたいのですが、個々に設置となると水道代のことも心配になります。

【成田委員】

具体的な話が聞けて、農業を経営していくことは大変なことと理解しました。現実的な問題に関して、個人でやることなのか行政に協力を求めて進めていくことなのか色々あると思います。皆さんの意見を聞いていくことは大切なことで、その中で寄附金をより多くの市民にとってメリットがあり有効に使えるようなものを判断していけるのかなと思います。

現実的にいろいろな課題があると生産者側も意欲が低下してくると思いますが、それを解決できるような方向性をみんなで考えていくことで、農家さんに対する課題の解決にも繋がり、地産地消についても少しずつ上向きになっていくのではないのでしょうか。

【新坂議長】

ありがとうございます。

寄附金については、和光市の農業や伝統工芸に使ってほしいという遺志があるものです。形として残るものやシステムとして残るものに使えるといいのですが、すぐにアイデアが出ないと思います。委員の皆様は各団体から代表として出席されているので、遺贈された方の思いをくみ取った寄附金の活用方法についてお話していただければと思います。

【吉田委員】

令和8年度予算には載せていないのですか。

【事務局】

一部、載せています。

予算の要求前の夏頃に実施計画の提出がありますが、その時期までに議論が深まれば令和9年度の予算要求に計上しますが、間に合わなければ翌年度の予算になります。

【吉田委員】

この協議会での意見で予算計上するかが決定されるわけではなく、協議会から出た意見はあくまで参考ということでしょうか。

【事務局】

その通りです。

【吉田委員】

認定農業者への補助金がありますが、補助金を増額し、その増額分に寄附金を充てることは可能ですか。

【事務局】

都市農業支援補助金は今まで300万円の予算でしたが、令和8年度は100万円増額し、増額分に寄附金を充てています。

【吉田委員】

生産者の意見として、肥料等の購入費も上がっている中で補助金の増額は大変ありがたいと思います。しかし、個々に対しての補助は、寄附をされた方の遺志が届いているのでしょうか。

先ほど話に出ていた、地産地消のためのアプリを活用する方法は大変良いと思います。

【富澤委員】

駅前で軽トラ市をやっています。その時にもどこで生産しているのか聞かれることがあり、口頭で場所を言ってもうまく伝わらないことがあります。圃場や作っている野菜が紹介できるアプリを整備できれば大変ありがたいことです。以前、事務局に提案したこともあります。

【清水（飛）委員】

皆さんの議論、意見等をお聞かせいただき、すぐに解決できるものではないと感じました。和光市だけではなく管内の話聞くことで、考えること、できることもあると思っていますので、すぐに解決できることではないことを念頭に置きながらも、引き続きこういった場で意見交換ができるといいと思いました。貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございました。

【新坂議長】

全体を通して何かありますか。

【富澤委員】

学校給食の課題について、出荷協議会の会員に周知をしたいが、給食会議の出席者も減少してきていて、出荷協議会で情報共有ができていない状況にあります。出荷協議会に任せているだけでは今までの10年の実績と変わらない。行政と農協の協力が必要だと思いましたが、見解をお聞かせください。

【吉田委員】

市の農業全体に言えることですが、出荷団体に所属する農家も減ってきていることもあり農業団体としての運営が難しくなっています。それとやはり後継者がいないといことです。

農家自身が畑を守り農業が衰退しないように、考え伝えていかないといけないと思います。

総括として、所属している農業団体に議題にあがったものや皆さんの意見を伝えようと思います。

【新坂議長】

本日は久々の対面会議ということもあり、手探りで進めてきましたが、色々なご意見が出され大変有意義であったと思います。

抱えている課題は大きなもので、すぐには解決できるものではありません。都市農業を推進していくために生産者だけではなく消費者の力も借り、また、こういった会議で意見交換を行い、協議検討していくことが大切なのではないでしょうか。

それでは、ご協力に感謝を申し上げまして、議題を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

【事務局】

委員の皆様には年度末のご多用中、ご出席いただきありがとうございました。今後のスケジュールについて説明させていただきます。いただいたご意見は、関係各課に情報共有させていただきます。意見交換で終わらせることのないように、報告も含め、新年度になりましたら、なるべく早い時期に、都市農業推進協議会を開催させていただきますのでご出席をお願いいたします。

5 閉会